

# ほなみ通信

第92号

2021年2月26日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571



## 大活躍の年末年始！

グループホーム穂波の里



## 事例報告会

平成の年より毎年10月に開催しておりました事例報告会ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初めて書面による報告のみとなりました。

事例報告会では、各部署が継続して取り組んできた援助内容を振り返り、考察し、次の援助につなげる。また、他部署の業務内容や役割、援助の視点を知るまたない機会となっています。

その中から、今回は特養の報告を紹介させていただきます。

### 特別養護老人ホーム穂波の里

#### 「Sコロッケ店」を出店して

介護職員 板谷 圭司

特養で入居されているS様は坂井輪地区で毎年11月に行なわれる「坂井輪健康まつり」にコロッケ店を出店されている。特養の入居者が地域のイベントにご自分で出資で出店しその後の入居者の会の活動につながった事例である。コロッケ店出店がS様にどのような変化があったのか振り返ってみようと思う。



新潟市西区に夫婦で肉屋を開店。地域でも評判のお店だった。肉屋は本人が71歳まで続けます。が、周りに惜しまれつつ閉店。その後5年後に脳梗塞を発症され、左上下肢に麻痺が残り、在宅で生活が困難なため、翌年特別養護老人ホーム穂波の里に入居される。

Sコロッケ店出店のきっかけは、入居から2年後、S様本人から「久しぶりにコロッケを作りました」という一言からはじまる。最初、コロッケを作つて、食事をおやつの時にだして他入居者に食べてもらおうと思つていたが、S様は「私は商売人だったからコロッケを作るなり、売つてもうけたいわ」と希望される。ケアマネに相談し、S様がこの話にかなり乗り気なこと、ケアプランにある「日々の生活中でやりがいを見つける」中の実践としてコロッケ販売・出店を計画する」とになります。

まず、コロッケをどこで販売・出店するか。S様の話ではお店をやっていた時、坂井輪健康まつりで販売していたとのこと。坂井輪健康まつりは穂波の里も参加しており、坂井輪健康まつりに「のコロッケ」として出店することを決定する。

かつたと思ひ。年に一度であるがSコロッケ店出店は普段の施設の生活の中では感じじうことができない充実感、満足感を得る機会になつてゐると思ひ。また、毎年、Sコロッケ店の店頭に立つといつ目標ができ、日常生活の中でハピリ、車イスの自操、トイレ誘導時の立位等に取り組んでおり、ADL(日常生活動作)、QOL(生活质量)の低下を防いでいると思ひ。施設生活中でちよつとした目標をもち楽しみがあるだけで日々の生活で活力を得られることをSコロッケ店を出店して改めて感じた。初出店から7年たち、S様が、今後も介護職員として入居者の目標、楽しみ、おかげさにいえれば「いきがい」を見つけ一緒に笑顔になれるように援助、支援をしていきたい。

道場山に続き新通でも  
オンライン面会導入

施設長 古藤 悅子  
特養 穂波の里

新型コロナウイルスの猛威により新潟県でも1000人を超える感染者が増加しています。穂波の里(新通)でもご家族との面会がまことに施設の会議室と交流スペースにインターネット環境を整え、ノートパソコンを1台新しく購入しオンライン面会を始めました。

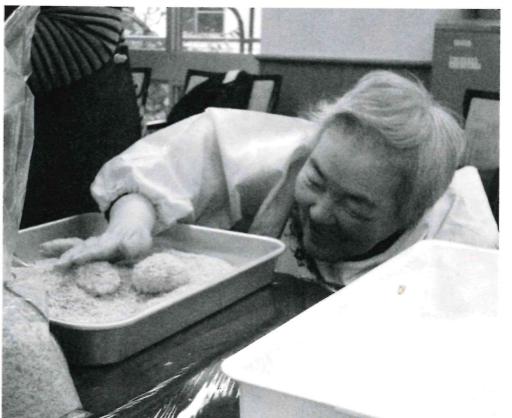
また、「新型コロナウイルス感染症対策オンライン面会事業補助金」を新潟市に申請しました。これは介護施設等の運営法人を対象に、新型コロナウイルス感染症対策としてテレビ電話やインターネット回線を利用するオンライン面会を実施する場合、経費の2分の1(10万円上限)を新潟市が補助する事業で穂波の里でも活用させていただきました。

オンライン面会には生活相談員が同席します。そのため曜日や時間の制約がありますがこれまでに2件の申し込みがありました。いつもと異なるオンライン面会に入居者の皆様は驚きながらも、ご家族と接するのことをとても喜んでおられました。画像は映るもののが声が聞こえないトラブルで、映像のみ繋ぎながら固定電話で会話をしたり、普段お会いすることが難しいお孫さんや孫さんの顔を見て涙を流しながら喜ばれたりする方もおられました。ご家族の皆様も久しぶりの面会で元気なご様子をご覧になり安心されていましたが同時に、限られた時間では話足りないような印象も伺えました。

また、通信機器の設置状況や複雑な操作のため、すべてのご家族がオンライン面会を行えるわけではありませんので、施設で定期的に発送している「近況のご様子」「にお元気な様子や写真等を送付したりしながら、日々のご様子をお伝えできるよう今後も努めていきたいと思います。



地域交流スペースにて



「コロッケを作つてらるとお店をやつていていた頃を思い出すわ」とS様はほんとに樂しそうで普段、レク等している時とは違つ表情をされる。「また、旦那とコロッケを作れるとは思わなかつた」ご主人とコロッケを作れたことが嬉しかつたと言われる。店頭にたち、目の前でコロッケが売れ完売するのをみていると、「商人冥利につきるわ。もうけぬこともできるいい氣分」また、友人等昔から同じのある人に会い、施設に入居しても元氣にしていることを伝えたいと言われる。

特養に入居すると集団生活の中での制限もありあきらめないと、S様は入居された時、ご主人とまた「コロッケ作りをしたり、コロッケで商売ができるとおもつてないな

（一部省略・編集しています）  
令和3年10月に10周年を迎えた  
道場山 穂波の里  
東理 道夫 様 (30万円)  
大切に活用させていただきます  
ご寄付

## 地域包括支援センター坂井輪

### 新たなつながりを生む

～地域に根差した活動～

私たちの地域には『坂井輪健康友の会』という地域住民の健康づくり組んでおられる団体があります。地域の健康づくりと助け合いで求められている最重要課題ですが、私が知る限りでは何十年も前から同じように活動されているかと思います。皆様とてもいい方たちばかりなので、たびたび無理なお願いをして活動と共にさせていただいております。

古くは歩いて通える距離に介護予防体操の集まりを、立ち上げから運営の中心的な担い手として一方ならぬご協力をいたしております。

令和3年2月1日  
地域センター内に開設  
ケアプランセンター たんぽぽ寺尾上  
管理者 小嶋 純子

この度、西区寺尾上5丁目に居宅介護支援事業所ケアプランセンターたんぽぽ寺尾上を新設いたしました。3人のケアマネジャーが在籍しております。

全国的に超高齢化が進展し、新潟市においても高齢化率が高くなっており、西区も同様に進んでおります。世帯構成では高齢者のみ世帯の割合が市内で最も高く、そのうち一人暮らしの高齢者世帯は、市内で3番目に多い区となっています。また最近では「8050問題」という言葉も、身近に起きてる状況です。親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなる深刻なケースも増えてきています。このようなことから、地域で生活する高齢者の実情やニーズに合わせた介護予防の取り組みと孤立防止、および自立した生活を支援するために、新たな居宅介護支援事業所の開設を進める運びとなりました。

高齢者が住み慣れた地域で、安



左より村山雪、猪爪百合子、小嶋純子です

度は10ヶ所になり、大変お世話になっています。健常チエックを毎年楽しみにしておられる方も少なくありません。なしろ無料で実施していただけるので、本当にありがとうございます。

また今年度は新型コロナウイルス感染症により介護予防体操の活動休止や、活動を再開しても密集・密接を避けるために定員を半分程度に抑える必要がありました。そのためお一人の方が参加できる機会は毎週から隔週に減るなど、特に高齢者の体力や筋力の衰えが心配になりました。このタイミングで健康友の会新通支部長星様から新たな試みとして『自宅で気軽に運動する』『健康チャレンジ』を紹介していただいたので、喜んで参加させていただきました。まだ暑さの残るの月中旬から10月中旬、下越病院より大熊保健師、新通・坂井東・五十嵐支部の各担当者の方々と強行日程ではありますでしたが10ヶ所をまわり、延べ240名の介護予防体操参加者に紹介することができました。その結果多くの方々の参加があつたと聞いておりましたが、1月下旬の忘れた頃に参加賞（ハンドタオルまたは歯ブラシ2本）が届き喜び声が寄せられました。やはりご

心して暮らし続けるためには、身近な地域の人々との交流や日常的な見守りが求められています。自治会等の地域のみに頼った取り組みには限界があり、ケアマネジャーが地域や行政、医療と協働して支えあうことが重要だと思いました。地域で困っている高齢者の方にかかる時間が多くなり、何を求めるか、何が必要なのか、を確かめながら一つ一つ丁寧に対応することを心がけています。また、それぞれのケアマネジャーが協力しあい、個々の経験や知識を共有し、チームワークを活かした事業所を目指していく

皆様からのご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。また最近では「8050問題」という言葉も、身近に起きてる状況です。親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなる深刻なケースも増えてきています。このようなことから、地域で生活する高齢者の実情やニーズに合わせた介護予防の取り組みと孤立防止、および自立した生活を支援するために、新たな居宅介護支援事業所の開設を進める運びとなりました。

## 支え合いのしくみづくりに向けて

支え合いのしくみづくり推進員 鈴木 由理

令和2年は、支え合いのしくみづくりの取り組みにおいても、試練の年でした。新潟市の要請により、地域のお茶の間等の活動も自粛を求められ、6月より再開を認められたものの、実際に活動を開いたのは圏域内でも6割程度。「高齢だから感染が怖い」と参加をためらう方、「もし感染者が出たら誰が責任をとるのか」という声が地域からあがるなど、活動の担当者にとっても参加者にとっても厳しい状況は今も続いている。

少しでも活動継続の力になれるほど、前年度に作成したお茶の間運営のヒント集や西区のしくみづくりガイドブックなどをともに感染予防の資料を一冊のファイルにまとめ、圏域内のお茶の間に配布したり、その際に活動再開や継続について相談して回りました。再開をためらっていた方が、「みんなで話し合って、再開することになりました」と嬉しそうな声で「連絡くださったときは、私も嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

また、9月末にはお茶の間の情報交換会を人数限定で開催し、それ

このような活動を通して、この度とてもありがたいなあと思つ出来事がありました。

健康チャレンジの参加賞を届けるためにある方を訪問した際のお話で、その方は自宅から少し離れた所の介護予防体操に通つておられましたが、活動休止となり、再開の日途もたたないまま数か月がたっていました。お一人暮らしであります。また、それぞれのケアマネジャーが協力しあい、個々の経験や知識を共有し、チームワークを活かした事業所を目指していく

**STEP 1 チャレンジコース**

下の4つ(A~D)のコースから、チャレンジしたいことを具体的に選びましょう。  
“自由”は自分に合った目標を自由にたてて取り組みます。  
ひとつでも、複数でも選択可。チャレンジする内容に☑しましょう。★は難易度

<b>A ながら体操で元気コース</b>	<b>B 腕元気コース</b>	<b>C お口の健康コース</b>	<b>D 食事で元気コース</b>
<input type="checkbox"/> ① ちよこっと(★) <input type="checkbox"/> ② まつたり(★★) <input type="checkbox"/> ③ いきいき(★★★) <input type="checkbox"/> ④ がんばる(★★★★) <input type="checkbox"/> ⑤ 自由(★★)	<input type="checkbox"/> ① おしゃべり(★) <input type="checkbox"/> ② よく噛んで食事(★★) <input type="checkbox"/> ③ 寝る前に歯磨き(★) <input type="checkbox"/> ④ 指先を使(★★★) <input type="checkbox"/> ⑤ 着いきいき(★★★★)	<input type="checkbox"/> ① おしゃべり体操(★)※2 <input type="checkbox"/> ② ひどく30回を目安に <input type="checkbox"/> ③ 寝る前に歯磨き(★) <input type="checkbox"/> ④ 自由(★★)	<input type="checkbox"/> ① 朝食を食べる(★) <input type="checkbox"/> ② 毎食たんぱく質(★★) <input type="checkbox"/> ③ 野菜たっぷり(★★★) <input type="checkbox"/> ④ 塩分控えめ(★★★★) <input type="checkbox"/> ⑤ 自由(★★)

専門職だけでは、なかなか支援が行き届かない現状がありますので、地域の身近なところにこのようないい方の心を開きつかけて、丁寧に対応してくださったことで新たなるつながりができるたと感謝しています。

これからも地域の様々な団体の方々と協働していくことが、より安心して住み続けられる地域づくりにつながることを期待せずにいるかもしれません。

この冬の悪天候の中、郵送ではなく訪問し手渡しされているといふことをお聞きし、地道な活動がその方の心を開きつかけて、丁寧に対応してくださったと感謝していました。

この冬の悪天候の中、郵送ではなく訪問し手渡しされているといふことをお聞きし、地道な活動がその方の心を開きつかけて、丁寧に対応してくださったと感謝していました。

## 支え合いのしくみづくりに向けて

支え合いのしくみづくり推進員 鈴木 由理

令和2年は、支え合いのしくみづくりの取り組みにおいても、試練の年でした。新潟市の要請により、地域のお茶の間等の活動も自粛を求められ、6月より再開を認められたものの、実際に活動を開いたのは圏域内でも6割程度。「高齢だから感染が怖い」と参加をためらう方、「もし感染者が出たら誰が責任をとるのか」という声が地域からあがるなど、活動の担当者にとっても参加者にとっても厳しい状況は今も続いている。

少しでも活動継続の力になれるほど、前年度に作成したお茶の間運営のヒント集や西区のしくみづくりガイドブックなどをともに感染予防の資料を一冊のファイルにまとめ、圏域内のお茶の間に配布したり、その際に活動再開や継続について相談して回りました。再開をためらっていた方が、「みんなで話し合って、再開することになりました」と嬉しそうな声で「連絡くださったときは、私も嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

また、9月末にはお茶の間の情報交換会を人数限定で開催し、それ

**お正月三が日のごちそうです**

ケアハウス穂波の里

**移転のお知らせ**

令和2年12月1日ヘルパーステーションたんぽぽ寺尾上（令和元年6月開設）を、ホームヘルプサービス穂波の里（ケアハウス穂波の里内）に移転、統合しました。統合により利用者援助に支障が出ないよう努めて参ります。今後ともよろしくお願ひいたします。



1月1日 朝食



1月3日 朝食



1月2日 朝食

**特養穂波の里 例年どおりお正月を楽しみました**

